

HONTAN

図書館ボランティア「本探」が 旬の図書館情報をお知らせします！

HONTAN phrase

今月の DVD

Theme：～秋の寂しさに負けない元気が出る一言～

『この世界の片隅に』

片渕須直 監督・脚本；こうの史代 原作
2F 視聴覚資料 778.77/K

以前にドラマ化されたこともあり、タイトルを聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか？日本だけではなく海外でも人気の作品です。

この作品は、戦時中の広島を舞台に描いたものです。戦時中でさまざまな事が起こる状況でも、力強く生きていく主人公すずさんと今のコロナ禍の状況が重なり、力を貰えるはず。また、この映画を観て、戦争について考えるきっかけにしてみたいかがでしょうか。」

<ひっか>

「僕は、すべての人がおたがいによい友だちであるような、そういう世の中が来なければいけないと思います。」

『君たちはどう生きるか』 著：吉野源三郎 159.5/Y 2F 文庫新書

物語の主人公であるコペル君が、叔父さんに宛てて書いた手紙の一節です。この小説が出版されたのはもう 80 年以上前ですが、今もなお、読むと勇気が湧いてくる作品だと感じます。

<イワッキー>

「おれは、100 万回も しんだんだぜ。」

『100 万回生きたねこ』

佐野洋子 作・絵 726.6/S 2F 絵本

題名通り何度も死んでしまった猫の一言です。100 万回の死に比べれば、全てがちっぽけなことに思えます。

自分の死さえも自慢話にしてしまう心の強さから自然と力がもらえる気がしますね。

<メイジ>

「もし、わたしがあなたの目を通して見たら、沈む夕陽がわたしにとっての青に見えはしないだろうか？」

『100 の思考実験：あなたはどこまで考えられるか』

著：ジュリアン・バジーニ 104/B 3F 和書

ものの見方、感じ方、受け取り方等人と異なる観点について、感じていた虚無感や複雑さを払拭することができ、楽になることができます。

<rasa>

今月の 1 冊

『ことばの恐竜：最果タヒ対談集』

著：最果タヒ 914.6/S 3F 和書

『言葉には話せば話すほど知らないものになっていく。恐ろしさと楽しさがあるのだ…』
 これはこの本の著者、最果タヒさんの言葉です。

会話をするとき、SNS で様々な人とやりとりをするとき、私たちは「言葉」を使ってコミュニケーションをとっています。「言葉」はなくてはならない不可欠なものです。無意識に使っているはず。あなたが普段読んでいる小説、漫画、歩きながら聴いている音楽。これらにも「言葉」を欠かすことはできません。

この本は、詩人である最果タヒさんと、「言葉」を扱う職業である様々な著名人との対談集です。「言葉」を歌詞として使う人、セリフとして使う人、小説を書く人…。あなたの知っている人もいるかもしれません。「言葉」を仕事として扱う人はどんなことを意識しているのか、そして「言葉」の恐ろしさと楽しさとは何なのか…。

1つの対談につき 10 ページほどなのでとても読みやすく、手に取りやすいはず。

「言葉」は日常生活でたくさん使うものです。だからこそ、この本を「言葉」の恐ろしさと楽しさについて知るきっかけにしてみてもどうでしょうか。

〈大福〉

～HONTAN 活動内容～

HONTAN では、定期的な機関誌制作や展示など行っています。機関誌では、メンバーのおすすめの図書を紹介したり、DVD のおすすめを記事にしたりします。また展示には、帯展示と黒板展示の二種類があります。帯展示は、表紙についている帯をメインに、本と共に展示しています。黒板展示の方は、担当者が月のお題に沿った本を選び、黒板に置いて本を紹介する展示となっています。このとき展示のレイアウトは工夫しながら飾り付けをすると、とても楽しいですよ！

今年は新型コロナウイルスの影響により開催されませんでした。大学祭では毎年お菓子を作り、ブースで販売します。去年は絵本をモチーフに、鈴カステラやドーナツを作りました。

メンバーからの一言

イワッキー 「展示や機関誌など、メンバーみんなで一步一步活動を進めています。興味のある方は一度図書館カウンターへ(^_^)」

メイジ 「メンバーは皆穏やかで優しい人たちです。気になったら参加してみてください。」

中村 「興味のある方は是非来てみてください。皆さんのお越しをお待ちしております！」